

科目名	評価学Ⅳ						
科目名(英)	Evaluation of Physical Therapy Ⅳ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山口 寿・仲吉		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 疾患別の運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。 2. 基本的な検査・測定方法を疾患別のリスク管理を考慮して施行できる。 3. 理学療法評価結果から疾患別、病期別の臨床推論の方法を知り、説明できる。 4. 基本的な運動療法と基本動作の実施方法と指導方法を知り、実際に施行できる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			検査・測定の臨床的意義を知り、実際に施行できる。	
	○	○	○			疾患別のリスク管理を考慮して施行できる。	
	○	○				疾患別の検査測定時の注意事項を知り、説明できる。	
				○		安全に配慮して実習を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)潮見泰三、下田信明:リハビリテーション基礎評価学、羊土社、2)田崎義明、斉藤佳雄:ベッドサイドの神経の診かた、南山堂、PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション			教科書の予習しておく。		
	2	脈拍と血圧の測定			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	形態測定			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	関節可動域測定			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	筋の触診			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	筋力測定			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	反射検査(腱反射)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	反射検査(病的反射)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	感覚検査①			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	感覚検査②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	脳神経検査			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	療法士面接・コミュニケーション技法			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	ホットパック実施の補助・上肢管理・下肢装具装着介助・車椅子駆動介助			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	下肢装具・歩行補助具の調整			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
15	診療参加型実習について						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○	○	○		80%
	小テスト		○				20%
履修上の注意	定期試験は、客観的臨床能力試験を実施します。						

科目名	理学療法管理学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	山下 慶三・田中 裕二		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	理学療法士が活躍している現場での業務内容や組織構造を学び、将来就職する分野の選択に繋がるよう具体的な事例を出しながら講義を行っていく。また、臨床現場でのリスクの把握、その管理体制の実際を学び、今後の実習準備に繋げていけるよう演習を取り入れながら実施していく。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各施設での理学療法士の業務内容や組織構造を理解できる。	
	○	○				医療や介護施設での診療報酬体制を理解し、収益構造について説明できる。	
	○			○		病院、施設、在宅などでの対象者に対するリスク管理について理解できる。	
	○			○		診療録や各種報告書などの書類の意義を理解し、模擬ケースを基に記載できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)石川 朗 総編：15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 理学療法管理学. 中山書店. 2020年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	総論 管理、マネジメントとは…理学療法管理学が必要とされる背景			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2	理学療法士の職業倫理 インフォームド・コンセント、個人情報保護、ハラスメントなど			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	3	病院の分類と組織 医療法および関連法規、各医療機関の特徴、組織構造、各種委員会			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	4	介護保険関連施設・その他 理学療法士の活躍する場 施設の特徴・組織構成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	5	医療保険制度と介護保険制度① 医療保険			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	6	医療保険制度と介護保険制度② 介護保険			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	7	診療・介護報酬と収益構造① 人件費とコストの仕組み			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	8	診療・介護報酬と収益構造② 演習			演習として課題を行います。これまでの資料を参考に して考えてみましょう。		
	9	業務管理 理学療法士の業務の流れ・多職種連携・業務 労務管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	10	情報管理 診療記録の意義・本校実習での経過記録について			実習での書類の記載方法について事例をもとに演習 を行います。		
	11	リスク管理 医療、介護におけるコンプライアンス・インシデントとアクシデント①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	12	リスク管理 インシデントとアクシデント② 臨床実習での事例と対応			事例をもとにレポート記載の演習を行います。		
	13	特別講義① 医療施設での業務管理の実際			講義後に感想または学んだことのレポートを実施し ます。		
	14	特別講義② 介護施設での業務管理の実際			講義後に感想または学んだことのレポートを実施し ます。		
15	まとめ 実習に向けての心構え・理学療法士を目指すにあたって			本講義のまとめを実施します。配布プリントを持参し てください。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト・レポート	○	○		○		40%
履修上の注意							

科目名	神経障害Ⅱ						
科目名(英)	Neuropathy Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松木 直人		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて理学療法業務での患者治療など		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1)脳血管障害の概念を理解する 2)脳血管障害のMRI画像診断を学ぶ 3)脳血管障害の検査・測定技術を説明し施行できる 4)脳血管障害の急性期・回復期・維持期の理学療法を説明できる 5)脳血管障害のADLの視点を知り、介助用法やリスク管理について説明できる						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		脳解剖および脳機能解剖を学び、脳血管障害の病態について説明できる。	
	○	○		○		MRIおよびCT画像の診方を学び、病態把握に必要な基本的な知識を基に説明できる。	
	○	○		○		脳血管障害の検査・測定を選択し、その目的と結果の考察を説明できる。	
	○	○		○		急性期、回復期、維持期における理学療法の目的と役割を説明できる。	
	○	○		○		脳血管障害の運動療法の目的とその方法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 原寛美・吉尾雅春(編集): 脳卒中理学療法の理論と技術(改定第2版), メジカルビュー社. 2) 森惟明・鶴見隆正著: PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見, 医学書院.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脳血管障害の概念 内容: 脳とは?				教科書の予習をしておく。	
	2	脳血管障害の概念 内容: 脳卒中とは?				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	脳血管障害の評価 内容: 脳血管障害の評価①				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	脳血管障害の評価 内容: 脳血管障害の評価②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	脳血管障害の動作分析・歩行分析 内容: 脳血管障害の評価(動作分析から解る事)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	脳血管障害の急性期理学療法 内容: 脳血管障害の急性期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	脳血管障害の回復期理学療法 内容: 脳血管障害の回復期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	脳血管障害の維持期理学療法 内容: 脳血管障害の維持期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	脳血管障害の高次脳機能 内容: 脳血管障害の高次脳機能の評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	脳血管障害のCT・MRI・ADL・上肢機能 内容: 脳の構造と機能と見方とADL・上肢機能の評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	脳血管障害の装具療法 内容: 脳血管障害の装具療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	脳血管障害の評価・治療の統合と解釈 内容: 脳血管障害の評価・治療の統合と解釈				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	国家試験対策 内容: 脳血管障害に関する問題①				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	国家試験対策 内容: 脳血管障害に関する問題②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	授業総復習・まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	骨関節障害 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	仲吉功治		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 骨関節系の基礎について知る。 2. 各疾患の病態について知る。 3. 各疾患の理学療法について知る。 4. 各疾患に対する評価から理学療法プログラムまで理解する。 5. 各疾患に対する理学療法を実施できる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				骨関節疾患に関わる解剖学的知識を整理することができる。	
	○	○				各疾患の病態を理解し、適切な理学療法について説明することができる。	
	○	○	○			各疾患に対する理学療法を安全に実施することができる。	
	○	○				各疾患に対し、的確な評価を挙げ、理学療法プログラムの立案ができるようになる。	
	○	○				ケーススタディを通し、問題点を把握し、その臨床推論過程を整理することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション(骨関節障害の捉え方) 運動器障害とは 組織損傷と治癒過程			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	骨折総論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	上肢の骨折			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	下肢の骨折(大腿骨頸部骨折)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	下肢の骨折(下腿・足部骨折)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	退行性疾患(変形性股関節症)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	退行性疾患(変形性膝関節症)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	膝関節障害(半月板損傷・前十字靭帯損傷)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	中間まとめ(調べ学習)			これまでの授業資料を復習しておくこと		
	10	肩関節疾患(肩関節周囲炎)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	肩関節疾患(腱板断裂)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	足関節障害(アキレス腱断裂・足部損傷)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	下肢関節機能障害に対する考え方(症例検討)			これまでの授業資料を復習しておくこと		
	14	国家試験対策			これまでの授業資料を復習しておくこと		
	15	国家試験対策			これまでの授業資料を復習しておくこと		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	レポート	○	◎				20%
履修上の注意							

科目名	骨関節障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	筒口さゆり		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	本講義では、臨床的に多くみられる体幹機能障害に対する理学療法の考え方を学び、脊髄損傷、関節リウマチの病態理解からADL指導までを学んでいく。体幹機能障害に対する理学療法については実技を主体とし体験を通し、理解を深めていく。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技： △	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				体幹機能障害を呈する疾患について理解でき説明できる。	
	○	○		○		体幹機能障害に対する理学療法評価・治療を指導の下で実践できる。	
	○	○				脊髄損傷の病態、合併症のメカニズムを理解し説明できる。	
	○	○		○		脊髄損傷の高位レベルの判断ができ、残存レベル毎のADL指導を実践できる。	
	○	○				関節リウマチの病態、特徴を理解し、ADL指導を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 井桶栄二・吉川秀樹 他編：標準整形外科 第14版. 医学書院 2020 2. その他：授業の中で紹介します						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 体幹機能障害に対する理学療法 (疾患：椎間板ヘルニア)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	体幹機能障害に対する理学療法 (疾患：腰部脊柱管狭窄症・脊椎圧迫骨折 他)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	3	体幹機能障害に対する理学療法 (実技)：評価			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	4	体幹機能障害に対する理学療法 (実技)：治療			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	5	体幹機能障害に対する考え方 ケーススタディ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	6	体幹機能障害に対する考え方 ケーススタディ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	7	関節リウマチの病態・臨床症状・治療内容と治療方針			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	8	関節リウマチの理学療法の考え方(評価・アプローチ・ADL指導)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	9	脊髄損傷の概要(症状・合併症など)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	10	脊髄損傷の概要(症状・合併症など)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	11	四肢麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	12	四肢麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	13	対麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	14	対麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導・歩行指導)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料の復習をしておくこと		
	15	まとめ			これまでの学習内容のまとめとして再度復習を行います。配布資料を持参してください。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				80%
	小テスト	○	○		○		20%
履修上の注意							

科目名	内部障害Ⅱ						
科目名(英)	Internal Disability Studies respiratory organs Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	西村天利・山口 寿		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として 病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 運動に必要なエネルギー代謝と循環応答を理解する 2. 循環器系の解剖と生理を理解する 3. 心電図を読むことができる 4. 虚血性心疾患の病態と心臓弁膜症と大動脈の疾患について学習する 5. 運動処方と運動療法の考え方を理解する 6. 代謝疾患の病態を理解する 7. 代謝疾患の理学療法を理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において循環器・代謝疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				循環器・代謝理学療法の実施過程を説明することができる。	
○	○		○		チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法循環・代謝 第2版」石川朗＋木村雅彦 編						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	臨床に必要な心不全の知識	8章	授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習			
	2	心電図・不整脈の診かた	1章～3章	指定範囲の教科書の予習・復習			
	3	心臓リハビリテーションの実際	12章・13章	授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習			
	4	病態・検査と治療	5章・6章・7章	指定範囲の教科書の予習・復習			
	5	提示した症例についてまとめてみよう	14章	授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習			
	6	心疾患の評価・リハビリテーション	12章・13章	指定範囲の教科書の予習・復習			
	7	腎臓リハビリテーションの実際	12章・13章	授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習			
	8	腎臓病の病態・検査	11章	指定範囲の教科書の予習・復習			
	9	提示した症例についてまとめてみよう	12章	授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習			
	10	腎疾患の評価・リハビリテーション	12章・13章	指定範囲の教科書の予習・復習			
	11	糖尿病の理学療法の実際	4章・15章	授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習			
	12	糖尿病の病態・検査	9章	指定範囲の教科書の予習・復習			
	13	提示した症例についてまとめてみよう	4章・15章	授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習			
	14	糖尿病の合併症と治療	10章	指定範囲の教科書の予習・復習			
15	まとめ (国家試験対策含めて)			指定範囲の教科書の予習・復習			
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内課題	◎	◎				50%
	質問の実施		○		○		20%
基礎テスト		◎				30%	
履修上の注意	奇数回の授業は全てGoogle classroomで実施します。定期テストは一切行いません。欠席した場合は、Google classroom上で個人で課題の遂行を全て行って下さい。課題は1単元180分間で設定しています。						

科目名	小児発達障害						
科目名(英)	Childhood Developmental Disorders						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松崎 哲治		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて理学療法業務での患者治療など		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	・小児理学療法の考え方、対象疾患について理解する。特に脳性麻痺を通して、小児の対象者に対する理解を深め、理学療法評価、治療までの考え方を学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:	△	
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				小児理学療法の考え方、対象疾患について説明できる	
	○	○				原始反射と姿勢反射について説明できる	
	○	○				0か月～12か月の粗大運動の発達について大まかに説明できる。	
	○	○				脳性麻痺の異常発達について説明できる	
	○	○				脳性麻痺の評価と治療について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂・田原弘幸他 :小児理学療法学テキスト.南江堂.2010 その他:国家試験を使って、ワーク形式で行っていきます。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 小児理学療法の考え方			授業内容に該当する指定教科書の部分を読んでおく		
	2	脳の発達と随意運動の始まり			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	3	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について①			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	4	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について②			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	5	脳性麻痺の概念・病態について 脳性麻痺のタイプ別特徴について			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	6	NICUの理学療法・評価について(GMFCS・GMFM・PEDIなど) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	7	中間テスト					
	8	脳性麻痺の特異的運動発達について(重症心身障害児とは) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	9	脳性麻痺の特異的運動発達について(両麻痺) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	10	脳性麻痺の特異的運動発達について(アトニーゼ) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	11	脳性麻痺の評価(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	12	脳性麻痺の評価と解釈(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	13	脳性麻痺の治療の考え方(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	14	その他の小児疾患について(筋ジストロフィー・広汎性発達障害含む)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で予習をもとに発表してもらおう。また、授業中の挙手での発言も採点する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	レポート	○	○				20%
	中間テスト	◎	○				20%
履修上の注意							

科目名	評価実習						
科目名(英)	Clinical Practice						
単位数	3単位	時間数	135時間	担当者	理学療法学科教員		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	指導・監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者の障害像を捉える。具体的には、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に評価項目を選択し、理学療法評価学等で学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査、動作観察などの基本的な検査・測定を実施する。次に、得られた評価結果に対して解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に解釈を行い、機能障害と能力障害の結びつきを理解する。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習： ○	実技： ○	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		知識・技術・人格が理学療法の本三柱であることを深く心に刻み、専門職としての向上・充実を図るための態度を修得できる	
		○	○	○		検査測定の見識や技術を実際の患者に実施できる。	
	○	○				収集した情報および実施した個々の検査結果を基にして患者像を捉え、主要な問題を把握できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1						
	2						
	3						
	4						
	5	・評価実習事前セミナー：2023年1月30日(月)～2月4日(土) OSCEによる診療技能練習と試験を実施					
	6	国家試験問題を利用した知識面の整理と実力テストの実施					
	7	コミュニケーション講座によるソーシャルスキル向上					
	8	メンタルケア講座を実施					
	9	・評価実習：2023年2月6日～2月25日(土) ※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする)					
	10						
	11	・評価実習事後セミナー：2023年2月27日～3月4日(土) 各施設で学んだ事、担当症例のまとめなどを作成し、発表会を実施					
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・評価実習事前セミナー：事前OSCEおよび実力テストなどを実施 ・評価実習：実習状況報告書など ・評価実習事後セミナー：実習課題提出と発表会を実施 成績評価基準は上記成績を総合的に判定して、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習状況報告書	◎	◎	◎	◎		60%
	事前セミナー	◎	◎	◎	◎		20%
	事後セミナー	◎	◎		◎		20%
履修上の注意							